



SSH特別講演会

最近の天気予報はかなり正確になってきた印象である。気象庁のホームページなどを見ると、雲の動きなどもかなり詳細に掲載されていて、見慣れてくると、自分でも天気予報ができるようになるかもしれない（…ってそんなに甘くないか）。日本人にとっては気象の話はなくてはならない話題だが、天気予報があれだけ正確になった背景には、気象衛星の活躍や、「京」というスパコンが大きな役割を果たしているらしい。今日のSSH特別講演会@東京大学安田講堂でお話をして下さる三浦謙一先生（先輩）は、そんな「京」の開発の中心になった人物である。ちょっと（かなり？）我々とはレベルの違う方ではあるのだが、その方が、ご自分の専門と関連づけながら、自らの歩みを振り返って語って下さる話（「私の歩んだ道～スーパーコンピュータ開発とシリコンバレー～」）は興味深いものがある。文系の諸君の中には、自分とは関係ないと思っている人もいるかもしれないが、今の社会がコンピュータで支えられているのは（天気予報の話をはじめとして）まぎれもない事実だし、話題のAIの話も登場するかも知れないので、こらからの社会の在り方を考える機会として、ぜひ聞き漏らすことなく話に集中してほしいものだ。

ちなみに、入試小論文のテーマなどは、この夏休みにかけて考えられる可能性が高い。最近では災害に関する話題も多いので、防災に関するテーマや、ボランティアに関するテーマ、さらに気象変動や地球環境に関するテーマなどが出題される可能性は十分にある。そういう話と、今日の「京」の話がリンクする可能性も高いだろうし、直接リンクしなくて

も、今日聞いた話を小論文の序論のところで展開できたりすれば、他の受験生とはひと味違った答案を作ることが可能になる。何にせよ、どれだけの収穫を得られるかは君たち次第だ。集中できない環境で内職するのと、広がりのある話題から何かのリンクを見つけるのとどちらが大切か、よ～く考えること。

講演の後は、「グローバル社会への向き合い方」というパネルディスカッション。3年生からは、SSH海外派遣の●●くん（36R）、G10派遣の●●さん（32R）、NZ海外交流派遣の●●さん（36R）がパネラーとなって三浦先生とディスカッションする（もう一人は韓国派遣の2年生）。どんな話の展開になるのかは分からないが、将来、海外を舞台とした職業に就きたい人、海外という舞台で自分の実力を試してみたいと思っている人にとっては、興味深い話になるかもしれない。

もちろん、パネラーの意見が全てではないのだから、火曜日にやったGPSではないが、それを批判的に聞くことも大切である。なぜそういう意見になるのか、その意見の根拠は何なのか、その根拠は正しいのか、といった観点でディスカッションを聞くと、自分も実際に参加したかのように感じられるはずで、その感覚を覚えておくことが、例えば入試の小論文や、入試・入社試験の面接の際などに役立つかも知れない。

*

せっかく本郷に行くのだから、講演会の前後には、学食に寄ってみたり、生協書籍部を覗いてベストセラーを買ってみたりと、大学の雰囲気に触れてみるのもよいだろう。